

キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

上級者と日本代表選手が『ボルダリング』のコツを指導



ボルダリングジム経営
かしまけんし ともこ
加島健至さん・智子さん
未経験者に『ボルダリング』
の楽しさを伝える

2020年の東京オリンピックで正式種目になった『スポーツクライミング』。その一種である『ボルダリング』は、必要最低限の装備で岩や人工の壁面を登るスポーツです。

加島健至さん・智子さん夫妻は昨年、市内でボルダリングジムを開業しました。夫の健至さんはボルダリング歴が10年以上、妻の智子さんは現役のボルダリング日本代表選手です。

ボルダリングの魅力について伺うと、「登ることの喜びと登れた時の達成感。自分のペースでコツコツと練習し、より難しいコースを攻略できたときは本当に楽しいです。また、競技を通じて仲間ができるのも良い所です。」と2人は答えてくれました。



▲壁に登っている様子。『ホールド』(登る際に捕まる部分)は月に1回程度配置を換えている。

倉庫を改装したジムには、子ども用の壁が3面、大人用が8面あり、初心者から上級者まで楽しめます。また、近隣では珍しい角度140度と155度の壁面もあり、関東一円から利用者が訪れます。

「上級者はもちろんですが、深谷に住むボルダリング未経験のかたにぜひ、一度体験してもらいたいです。きっと楽しさに気付くと思います。」と2人は話し、今後はさらに地域に根差した活動を目指しています。

子どもからお年寄りまで楽しめ、体づくりだけでなく攻略ルートを考えることで思考力も鍛えられる『ボルダリング』。ぜひ、一度体験してみませんか？

L・フォルテ

男女共同参画情報コーナー

ともに認め合い 支え合う 元気と笑顔で参画するまち ふかや
男女共同参画推進センターの愛称です。このコーナーでは、男女共同参画に関する情報を皆さんに紹介します。

男女共同参画政策課 ☎574 - 6643

11月12日(月)～25日(日)は『女性に対する暴力をなくす運動』期間です。

毎年、11月12日から、『女性に対する暴力撤廃国際デー』である11月25日までの2週間は『女性に対する暴力をなくす運動』の期間です。

暴力は、その対象の性別や、加害者と被害者の間柄を問わず、決して許されるものではありません。特に、配偶者などからの暴力、性犯罪、売買春、人身取引、セクシュアルハラスメント、ストーカー行為など、女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。

この運動期間をきっかけに、女性に対する暴力について考え、男女がお互いの意見を尊重し、暴力のない社会づくりを進めていきましょう。

【デートDVに関するパネル展】

デートDVとは恋人同士の間で起きる暴力のことです。下記の期間に、デートDVについてのパネル展を行いますので、お越しください。

とき●11月13日(火)～25日(日)

ところ●キララ上柴(アリオ深谷3F)ロビー



▲『女性に対する暴力をなくす運動』啓発ポスター

ふっかちゃんの日常から
深谷が見えてくる

ふっか 散歩



65 上武大橋

今日は新しくなった『上武大橋』に来たよ！車道部分も広くなって、より安全に通行できるね。この橋は埼玉県と群馬県をむすぶ大事な橋で、古い橋は昭和9年(1934年)から80年以上、両県の交流を支えてきたんだって。



◀一番左が、古い橋の歩道で、真ん中が古い橋の車道、右の一段高いのが新しくなった橋だよ。80年以上たって古くなったから、新しい橋に架け替えたんだって。



▲特別に古い橋に入らせてもらったよ。ここから見ると新しい橋が古い橋より高いところにあるのがよくわかるねえ。これは利根川が増水した時にもより安全に渡れるようになったって！

ふっかちゃんの
つぶやき

11月23日は『勤労感謝の日』だね！一生懸命なみんなに感謝しつつ、お互い『ねぎらう』ことが大切だよ～♪ Y(oωo)Y



心の広場

深谷小学校4年(現5年)
岩田 姫愛さん



みんなで幸せになる共生社会

わたしは、学校の人けん集会で共生社会という言葉を知りました。共生社会というのは、共に協力する世の中のことです。

わたしのおばあちゃんは、足が不自由で、車いすに乗っています。わたしは車いすに乗ってみたいと、おばあちゃんに、

「車いすに乗ってもいい。」

と聞いてみました。

「いいよ。」

といわれたので乗ってみました。

手で、車いすのタイヤを回してみました。部屋の中を車いすでまわるのはむずかしくて、後ろに行きたくてもうまく行くことができません。また、ちがう部屋に行くときも向きを変えることがむずかしくて、「車いすに乗ると、行きたい場所に上手に行けなくて大変なんだな。」

と分かりました。

わたしは、そう合の時間にボランティアについて勉強していました。

そこで、目の不自由な人の体験をしました。ブラインドウォークといってアイマスクをつけて歩くのです。

アイマスクをつけたしゅん間、目の前が真っ暗になって、びっくりしました。

つぐえにぶつからないか、人にぶつからないか、こわくて前に進むことができませんでした。ほんの人にひじを持ってもらってようやくおそるおそる進むことができました。

「目の不自由な人は、こんなに暗くてこわい思いをしているんだ。だからこうしてあげるといいの。」

と気づくことができました。また、アイマスクをはずしたときにとても安心しました。

これからわたしは、目の不自由な人と出会ったらやさしくひじを持ってあげたいです。

ブラインドウォークや車いすに乗った体験からわたしは、体の不自由な人がいたら自分の体験したことをいかして、やさしくしてあげたいと思うようになりました。そして、もっと世界が体の不自由な人にやさしくしなければいけないと思うようになりました。

人けんとは、みんなが幸せになるために大切なことです。二十一世紀は人けんの世紀といわれているそうです。体の不自由な人も幸せになるように、この世界のみんなが協力する共生社会にしたいと思いました。だからわたしは、だれにでもやさしくできる人になろうと思いました。